

新型コロナウイルス感染症対策とコロナ後の生活の定着

— モバイル利用のライフスタイル研究 —

佐藤 仁（NTT ドコモ モバイル社会研究所）、飽戸 弘（東京大学名誉教授）

キーワード：新型コロナウイルス、感染症対策、オンライン、ライフスタイル

【背景と仮説】

2020年以降の新型コロナウイルス感染拡大によって、人々の生活スタイルが大きく変わった。マスクの着用、キャッシュレスの利用など様々な感染症対策が日常生活の中に入ってきた。オンラインを活用した様々な生活スタイルが登場した。コロナ禍において登場した様々な行動が、人々の日常生活に定着してきた。コロナ禍後のライフスタイルや意識の変化については官公庁でも多くの調査が行われている。

そこでここでは様々な感染症対策とコロナ禍後の日常生活での新しいライフスタイルの定着の意識について、あらゆる感染症対策を行っている人は、コロナ禍後に新しいライフスタイルが日常生活で定着していると認識しているのではないかと仮説をもとに検討した。

【調査方法】

調査時期：2023年2月 対象：全国15-79歳
割り付け：性・年代（5歳刻み）、都道府県、都市区分、WEB調査、サンプルサイズ6151

【手続き】

各ユーザーの感染症対策のために普段行っている行動の質問と新型コロナウイルス感染拡大前と比較した生活での定着の質問を用いて因子（主因子法）・クラスタ分析（k-means法）で解析。

感染症対策で3つのクラスタ（①感染症対策積極派、②三密回避派、③感染症対策消極派）を抽出。

コロナ禍後の生活の定着で4つのクラスタ（①買い物・三密回避定着派、②オンライン生活定着派、③三密回避のみ定着派、④非定着派）を抽出。

これらのクラスタを用いてコロナ感染拡大後の新しいライフスタイルが日常生活での定着の検討を実施。またそれぞれのクラスタで性・年代別でも検討。

【結果・考察】

感染症対策のクラスタで男性は「①感染症対策消極派」（感染症対策に対して消極的）が3割を超えていた。女性は「②三密回避派」（三密回避、マスク着用などを実施）が5割を超えていた。10～20代の若年層は「③感染症対策消極派」が約5割で、60～70代のシニア層は「②三密

回避派」が約6～7割だった。

コロナ禍後の生活の定着でのクラスタで男性は「④非定着派」（コロナ禍後での生活に新しい生活様式が定着していない）が3割を超えていたが、女性は2割弱だった。女性は「③三密回避のみ定着派」（マスク着用、ソーシャルディスタンス等三密回避行動のみが定着）が約4割だった。10～20代の若年層は「②オンライン生活定着派」（オンラインでの活動が定着）が約2割。70代は「③三密回避のみ定着派」が約5割。どの世代にも「④非定着派」が約2～3割いた。

感染症対策とコロナ禍後の生活の定着の分析を行ったところ、以下のような結果が導き出された（図1）。

- 「①感染症対策積極派」の人は「①買い物・三密回避定着派」と「②オンライン生活定着派」が相対的に多い。
- 感染症対策で「②三密回避派」の人は「③三密回避のみ定着派」が相対的に多い。
- 「③感染症対策消極派」の人は「④非定着派」が相対的に多い。

新型コロナウイルス感染拡大前にはあまり普及していなかった感染症対策の行動が取り入れられようになり、それに伴い新たな生活様式が定着してきた。感染症対策を積極的に行っている人は買い物での対策（キャッシュレス利用等）、三密回避だけでなく生活でのオンラインの活用も多いことが明らかになった。

図1：感染症対策クラスタとコロナ禍後の生活の定着クラスタとの関係

	①買い物・三密回避定着派	②オンライン生活定着派	③三密回避のみ定着派	④非定着派
①感染症対策積極派	36.5% **	17.8% **	31.9% **	13.8% **
②三密回避派	29.9% **	9.3% **	43.3% **	17.6% **
③感染症対策消極派	17.1% **	11.6%	31.2% **	40.1% **
全体	26.5%	11.5%	37.1%	24.9%

【参考文献】

- ・「全国の都市における生活・行動の変化：令和3年度新型コロナ感染症の影響下における生活行動調査概要」（国土交通省）
- ・「令和3年版厚生労働白書—新型コロナウイルス感染症と社会保障—」（厚生労働省）